

パタゴニア社の新しい目標「The Climate Crisis (気候危機)」を公開

2020年までに再エネ100%、2025年までにカーボン・ニュートラル達成へ みんな電力と提携し、渋谷ストアの使用電力をソーラーシェアリングに切り替え

アウトドア企業のパタゴニア日本支社(本社:米国カリフォルニア州ベンチュラ、日本支社:神奈川県横浜市、支社長:辻井隆行)は、本日パタゴニア社の新しい目標である「The Climate Crisis(気候危機)」を日本の公式ウェブサイトにて公開しました。2020年までにオフィスや店舗で使用する量の電力を再生可能エネルギー100%でまかない、2025年までに事業全体においてカーボン・ニュートラル達成を目指します。

日本支社の取り組みの一環として、みんな電力株式会社(本社:東京都世田谷区、代表取締役:大石英司)と提携し、2019年4月9日より国内最大規模の直営店であるパタゴニア 東京・渋谷ストアの使用電力を、農業を継続しながら農地の上で太陽光発電を行う「ソーラーシェアリング(営農型太陽光発電)」の発電による電力へ切り替えを行いました。この電力は、千葉県匝瑳市にある発電所から供給を受けています。

新しいミッション「私たちは故郷である地球を救うためにビジネスを営む。」のもと、次世代に少しでも健全な地球を引き継ぐために、様々な行動をしてまいります。

● 「The Climate Crisis (気候危機)」 (<https://www.patagonia.jp/climate-crisis.html>)

気候危機は、もはや予測ではありません。数百万の人びとにとって、頻発し、困難で、壊滅的ですからある現実です。パタゴニアのビジネスも、あらゆる段階で関与しています。私たちは、二酸化炭素排出から逃れられません:石油からのポリエステル系製造、化石燃料で稼働する機械を使った織物、化学染料を使った布の染色やジャケットの防水処理、工場でのシャツ縫製、ある国から別の国へ、あるいはある都市から別の都市へのパンツの輸送、注文したお客様へのプラスチック製梱包資材での衣類の配送、職場への自動車通勤。

将来の地球を住みやすい環境に保つためには、私たちは慣習を変えなければなりません。「土地、エネルギー、産業、建物、運輸および都市における、急速かつ広範囲に及ぶ移行」に着手しなければならないと、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)は2018年10月の報告書で述べました。さらに、災害のリスクを減少させるために、地球温暖化を1.5°Cに抑えるための行動を迅速に起こさなければなりません。そのためには、人為的な二酸化炭素(CO2)排出量を、2010年の水準と比較して約45%削減し、排出量と同量のCO2を大気中から除去する「実質ゼロ」のCO2排出を、2050年までに達成する必要があります*1。

ミッションを実践するー「私たちは、故郷である地球を救うためにビジネスを営む」

パタゴニアの目標は、2025年までにサプライチェーンを含む事業全体にわたってカーボン・ニュートラルになることです。

「サプライチェーン」は、テキスタイルその他の製造業者に使用する用語で、糸を作るための作物栽培や生地を衣服にする縫製から、倉庫や店舗、あるいはお客様の玄関先への完成品輸送に至るまで、すべてのプロセスを表しています。パタゴニアのサプライチェーンは、私たちが排出する二酸化炭素の97%を占めています。「実質ゼロ」あるいは「カーボン・ニュートラル」とは、テキスタイルや衣類の完成品を作る工場や天然繊維を育てる農場から排出される分を含め、私たちが排出するすべての二酸化炭素を削減、回収、あるいはその他の方法で軽減している状態を意味します。

また、そこで終わるつもりはありません。私たちの目標は、会社を成長させながらもカーボン・ポジティブになること、つまり排出量以上の二酸化炭素を大気中から取り除くことです。どうやって？よくぞ聞いてくださいました。以下が、目標達成に向けて私たちが始めた重要なステップです。

2020 年までに、パタゴニアの小売店、流通センター、支社やグローバル・オフィス、本社で、再生可能電力のみを使用するようにします。日本支社においては、再生可能エネルギー発電所由来の電気に切り替えるか、パートナーシップによって使用する電気に相当する新たにクリーンな電気を生み出します。2018 年秋時点では、米国における再生可能電力の利用率は 100%※I、世界的には 76%です。

2025 年までに、当社製品には再生可能※IIIな素材、あるいはリサイクル素材のみを使用するようにします。2018 年秋時点では、重量比で素材の 51%が再生可能もしくはリサイクル素材です。2019 年秋までに 69%にします。

当社のサプライチェーン全体のエネルギー使用量を削減します。サプライヤーと協力して再生可能エネルギーに転換し、また、残りのカーボン・フットプリントをカバーするため、再生可能エネルギー・プロジェクトに投資します。

環境再生型オーガニック認証を活用し、当社のアパレル用繊維原料、およびパタゴニア・プロビジョン用の食材の栽培法として環境再生型有機農業を拡大し、土壌を回復させ、大気中から二酸化炭素を回収します。

世界中で、森林再生などの二酸化炭素回収プロジェクトに投資します。プログラムを拡大し、様々な取り組みをサポートする強固な事業部門にします。これにより、再利用やリペア、リサイクルを促して製品の寿命を延ばし、製品が環境に与えるフットプリントを削減します。気候変動に対する草の根活動や、私たちの惑星を守るために闘う非営利団体への支援を倍増させます。

※I IPCC(気候変動に関する政府間パネル)HP(<https://www.ipcc.ch/>)より

※II 現在、Center for Resource Solutions(資源ソリューションセンター)にこれらの計算を検証依頼中です。同センターは、独自のグリーン・E・認証プログラムに基づく、再生可能エネルギーに関する評価の承認を専門とする外部企業です。

※III 再生可能とは、毎年栽培または収穫可能な天然素材と定義されます。(例:ウール、オーガニックコットンなど)

● パタゴニア日本支社の再エネへの取り組み

当社では、再生可能エネルギー100%を達成するための取り組みとして、2018 年 6 月に北海道から関西までの 10 の直営店(札幌北、アウトレット札幌南、仙台、サーフ千葉/アウトレット、アウトレット目白、渋谷、神田、二子玉川、白馬、神戸)と、直営店に隣接する 2 つのスタッフルーム(名古屋、大阪)、2 つのオフィス(リペアサービス、神戸オフィス)において、電力会社を株式会社生活クラブエナジー(本社:東京都新宿区、代表:半澤彰浩)に切り替え、再生可能エネルギーの電力の供給を受け始めました。

● パタゴニア 東京・渋谷ストアのソーラーシェアリングへの取り組み

さらなる取り組みとして、みんな電力株式会社と提携し、2019 年 4 月 9 日より国内最大規模の直営店であるパタゴニア 東京・渋谷ストアの使用電力を、農業を継続しながら農地の上で太陽光発電を行うソーラーシェアリングの発電による電力へ切り替えを行いました。



パタゴニア×みんなエネ
匠瑳ソーラーシェアリング発電所 1号機 全体外観



農地の上で太陽光発電
(※写真は別施設のもの)

この電力は、市民エネルギーちば合同会社(本社:千葉県 匝瑳市、代表社員:東光弘)が運営する千葉県匝瑳市にある発電所から供給を受けています。発電所では年間約 6~7 万 kW の発電量を想定しており、渋谷ストアの年間電力使用量約 6.5 万 kW をほぼ賄うことができる見込みです※。

当社では、ソーラーシェアリングが太陽光発電だけでなく、農業を行うことで土壌を回復させ大気中から二酸化炭素を回収することができる点において、カーボン・ニュートラル達成に貢献する有効な手段と考え切り替えを行いました。

現在、店舗やオフィスの切り替えによる再生可能エネルギーの電力使用量の合計は、パタゴニア日本支社全体の電力使用量の約 36%に相当します。今後も再生可能エネルギーの導入店舗を拡大することで、再生可能エネルギー100%の目標達成を目指してまいります。

※年間発電量と年間使用量の合計で比較した場合。当該発電所からの供給が不足する時間帯にはみんな電力が調達する他の再生可能エネルギー発電所の電気を供給します。

● みんな電力株式会社

日本で初めて「顔の見える電力」として電力の生産者を応援する仕組みを実現したエネルギー・イノベーション・ベンチャー企業です。ブロックチェーン技術を活用した個人間での電力取引プラットフォームの開発など、誰もが電気を選べる仕組みで再エネ電力の利用拡大を目指しています。 <https://minden.co.jp/>

● 市民エネルギーちば合同会社 (略称:みんなエネ)

千葉県匝瑳市を中心にソーラーシェアリング型の発電所の建設、運営を行っています。ソーラーシェアリングは、基本的に太陽光パネルの下で耕作を行う環境配慮型の施行方法です。この未来ある技術を積極的に利用することで、自然エネルギーの健全な広がりにも寄与します。 <https://www.energy-chiba.com/>

● パタゴニア社 会社概要

- 本社 : パタゴニア社 Patagonia, Inc.
 - ・所在地: 米国カリフォルニア州ベンチュラ
 - ・設立年: 1973 年
 - ・創業者/オーナー/会長: イヴオン・シュイナード (Yvon Chouinard)
 - ・社長/CEO: ローズ・マーカリオ (Rose Marcario)

- 支社 : パタゴニア・インターナショナル・インク日本支社
Patagonia International Inc., Japan Branch
 - ・所在地: 神奈川県横浜市戸塚区川上町 91-1 BELISTA タワー東戸塚 5 階
 - ・設立年月日: 1988 年 8 月 23 日
 - ・日本支社長: 辻井 隆行
 - ・公式ウェブサイト: www.patagonia.jp

● 本件に関するお問い合わせ先

パタゴニア広報事務局 (ひとしずく株式会社内)

担当: かねこ、こくぼ

TEL: 045-550-4141

E-mail: press@hitoshizuku.co.jp